



2025 SUSTAINABILITY REPORT

サステナビリティレポート



2025

SUSTAINABILITY VISION

ならコープがめざす サステナビリティ・ビジョン

2024年度 基本方針

事業と活動を通じて、組合員の暮らしに貢献し続けます。

VISION 01



エネルギー対策と
環境への取り組み

VISION 02



持続可能な生産と
消費のために

VISION 03



安心してらせる
地域社会をめざして

VISION 04



健康づくりと
たすけあい

VISION 05



核兵器廃絶と
世界平和の実現を

VISION 06



未来のための
子育て支援

VISION 07



働き続けられる
職場づくり

COPORATE
GOVERNANCE



ガバナンスの
実践

※各VISIONの詳細はwebサイトをご覧ください。

コープSDGs行動宣言

私たち生協は、7つのSDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。



持続可能な生産と消費の
ために、商品とくらしの
あり方を見直していきます



ジェンダー平等(男女平等)
と多様な人々が共生できる
社会づくりを推進します



地球温暖化対策を推進し、
再生可能エネルギーを
利用・普及します



誰もが安心して暮らし
続けられる地域社会づくり
に参加します



世界から飢餓や貧困を
なくし、子どもたちを
支援する活動を推進します



健康づくりの取り組みを
広げ、福祉事業・たすけあ
い活動をすすめます



核兵器廃絶と世界平和の
実現をめざす活動を
推進します



ならコープ概要 (2025.3.31 現在)

名 称	市民生活協同組合ならコープ	子法人及び 関連法人	(株)奈良コープ産業 (株)CWS (株)ハートフルコープなら (株)ハートフルコープよしの (株)コープエナジーなら 竜田自動車(株) (有)竜田総合保険事務所 東吉野水力発電(株)
創 立	1974年7月25日		
本 部	〒630-8503 奈良市恋の窪一丁目2番2号		
職 員 数	1,462人 (総合418人、専任56人、定時職員988人(内、障がい者雇用人数27人))		
施 設 数	本部/支所(配送センター)6/店舗10/コープふれあいセンター六条/吉野事業所/田原本物流センター/たかだ未来づくりステーション/ならコープ下市ステーション/五條事業所準備室/ならコープ下市コミュニティスタンド		

50周年の歩み 誰もが笑顔で暮らせる社会へ

理事長 吉田 由香

2024年10月11日、ノルウェー・ノーベル委員会は2024年のノーベル平和賞を「日本被団協」に授与することを決定しました。被団協と共に草の根運動を続けてきた生協にとっても大きな喜びであると同時に、被爆・戦後80年、核兵器が使用されかねない国際情勢のもと、若い世代への継承を願い、今後、より一層の平和への取り組みを全国の生協と共につないでいかなければならないと決意を新たにいたしました。

2024年度はエリア事業本部制の2年目に入り、各エリアとも地域の自治体や学校、社会福祉協議会などとのつながりが広がりました。超高齢社会に対応し、「寄り添うコース」や「ゆっくりレジ」などにチャレンジし、組合員や行政からの期待も大きくなっています。また、3回目となる寄付（ドネーション）企画ではフードバンク団体「もったいないNARA」を支援対象として取り組み、のべ30,402人の組合員が対象商品を利用しました。子ども食堂への支援、食品ロス削減などを目的とするフードドライブは、定着した取り組みへと広がっています。「もったいないNARA」との連携を強めながら、今後も組合員とともにすすめてまいります。

2024年1月1日の能登半島地震から1年以上が経過しましたが、奥能登豪雨災害にも遭い、被災地では今もなお孤立・孤独・貧困・心身の健康問題等のさまざまな課題が山積しています。このような状況を踏まえ、全国の生協と共に被災地の支援に取り組んでまいります。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

2025年度、「2030環境ビジョン」の達成を目的に温室効果ガスの削減、脱プラスチック、食品ロス削減のほか、気温上昇によるリスクに対応し、気候変動に関する戦略的な取り組みを推進するため、気候変動対応委員会を設置し、「脱炭素経営」にさらにスピードを上げて取り組んでまいります。

「サステナビリティレポート2025」では、「コープSDGs行動宣言」の7つの取り組みを通じて、持続可能な社会の実現をめざした、2024年度のならコープ及びならコープグループ会社の実践を報告させていただきます。



誰もがいつまでも 笑顔でくらせる社会に

わたしたちは、食の安心・安全の取り組みを通して、消費行動やくらしの在り方を見直してきました。これからも協同の力で人間らしいくらしを創造して、平和で持続可能な社会の実現をめざします。

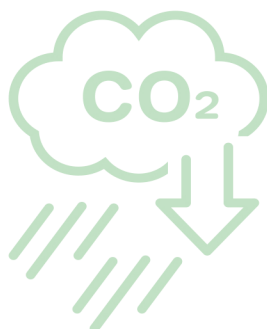
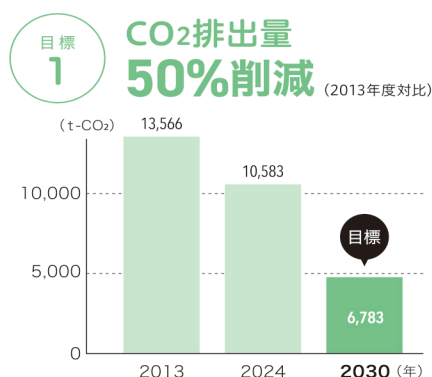
VISION 01

エネルギー対策と環境への取り組み



2020年に策定した「ならコープの2030年ビジョン」は、5年目を迎え、引き続き温室効果ガス削減、食品ロス削減、プラスチック容器包装材と資源の削減、エンカル消費の拡大に目標をもって取り組んでいます。また、2024年度は組合員の声を受けて、奈良県で初となる店頭でのアルミ付き紙パックのリサイクル回収を実現しました。これまで廃棄されていたアルミ付き紙パックが段ボールにリサイクルできるようになりました。

ならコープの2030年環境ビジョンの進捗



物流センタードライ棟の稼働（輸送距離の削減）

これまでは大阪府枚方市のおおさか協同物流センターからならコープ物流センターまでドライ商品を輸送していましたが、ドライ棟の開設によって輸送の必要がなくなり、CO₂の排出を削減することができました。



山の辺センターの開設

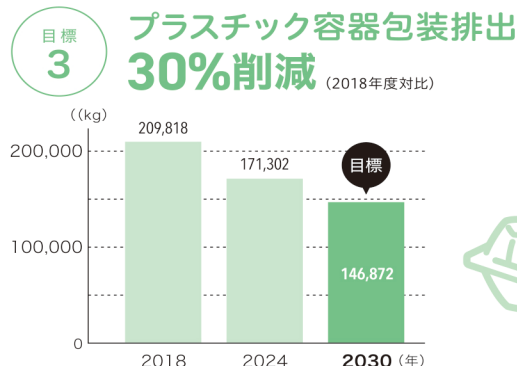
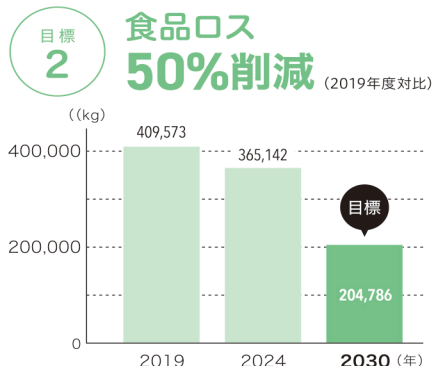


ならコープ7つ目の配達拠点として開設した山の辺センターは、商品の一時保管用の大型冷蔵庫を持たない「ジャストイン物流」で運用し、電気使用量が抑えられます。また、2025年度には施設やEVトラックで使う電気を再生可能エネルギーで運用できるように、太陽光発電と大型蓄電池の設置を計画しています。

EVトラックの導入



無店舗事業で使用するEVトラック2台を山の辺センターに導入しました。ガソリン、軽油を使用するトラックから電気で動くEVトラックへ切り替えることでCO₂排出量の削減をすすめていきます。



食品ロス削減に取り組む事業者登録

農林水産省の「啓発資材を活用した食品ロス削減に取り組む事業者」に登録し、「てまえどり」啓発動画の作成・食品ロス削減チャレンジを実施しました。

紙芝居動画の活用

組合員が作成した「てまえどり」の紙芝居動画を、店舗でのデジタルサイネージや地域の小学校の学習教材として活用し、食品ロス削減の取り組みを啓発しました。

リライタブルラベルの導入・内掛け袋の廃止



7月のドライ棟開設に伴い、商品を運ぶためのコンテナに貼るラベルシールを、印字情報を繰り返し書き換えることのできるリライタブルラベルに変更しました。同時にコンテナに使っていた内掛け袋を廃止し、年間約50tのプラスチック容器包装の削減が期待できます。



収穫体験を開催

コープの農場では、食育の取り組みとして玉ねぎやホワイトコーンの収穫を体験してもらいました。のべ109人の組合員が参加しました。



産直協議会



2月に生産者の苦勞と消費者の思いや要望を双方で共有し、農林水産物の育成を図ることを目的に産直協議会を開催しました。全国から24団体33人の生産者・生産者組織、ならコープ関係者40人が参加しました。

吉野の森と水を守るための募金

地産地消をすすめる取り組みの一環として、2009年から奈良県農業協同組合（JAならけん）と提携し、奈良県産「ひのひかり」1kgにつき、ならコープとJAならけんがそれぞれ、0.5円ずつ積み立てる「吉野の森と水を守るための募金」に取り組んでいます。2024年度は87万32円となり、奈良県森林組合連合会を通じて、森林の保全整備に活用される予定です。



87万32円
(2024年度)

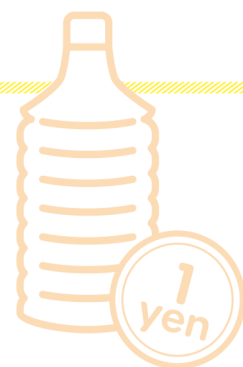
地産地消をすすめる会

田植えから収穫までを体験する「お米を育てよう」の企画には、計39家族136人の参加があり、大和平野土地改良区を見学して吉野川分水の役割や重要性を学びました。9月に「さつまいも収穫体験」、2月に「じゃがいも収穫体験」を実施しました。

奈良県環境県民フォーラムに寄付

「奈良桜よしの天然水8Lボトル」1点の利用につき1円を積み立て、環境保全活動に取り組む「奈良県環境県民フォーラム」に寄付しました。

4万2,591円
(2024年度)



県内大学との協働



9月に白鳳短期大学の学生48名がコープの農場で農業ボランティアに参加しました。さつまいもの収穫や白菜の植え付けを体験し、持続可能な農業や食の大切さを受講しました。コープの農場は、今後も地域と連携し、食と農の学びの場を提供していきます。



高齢者等の見守り活動

県内の23自治体と「配達時における高齢者等見守り活動協定」を締結しています。無店舗事業や夕食宅配事業など各事業の特性に合わせて、自治体と連携しながら利用者の見守り活動をおこなっています。



生駒市、奈良市と「連携と協力に関する包括協定」を締結

生駒市、奈良市とはこれまで見守り活動や子育て支援、災害時の物資供給など、多岐にわたる分野で連携してきました。この協力関係をさらに深めるため、生駒市とは4月に、奈良市とは10月に「包括連携協定」を締結。地域の活性化や脱炭素化、高齢者・障がい者の買い物支援など、幅広い分野で協力します。これによって県内で包括連携協定を結んでいる自治体数は11となりました。

下市コミュニティスタンド開設

下市内唯一のガソリンスタンドが2023年に閉店し、住民の生活に支障が出る中、下市町との包括協定に基づき、総務省の支援を受けて「ならコープ下市コミュニティスタンド」を開設しました。地域の重要な生活インフラとして期待されています。



能登半島地震への支援

能登半島地震の復旧復興中の豪雨災害に対して、10月からあらためて「令和6年能登半島地震及び能登豪雨災害支援募金」に取り組み、12月15日までに310万7,809円が寄せられました。募金は日本生協連を通じて、石川県と被災地支援に取り組む支援団体に寄付しました。また、コープいしかわが取り組む組合員への励ましのメッセージとプレゼントを贈る取り組みに協賛して、メッセージとコープの農場で作った「ホワイトコーンのスープ」100セットをコープいしかわに届けました。

健康大学

運動や体操、健康講座などを通じて、健康づくりの機会を県民に提供する「ならコープ健康大学」を2回開催しました。参加者はのべ240人以上となり、「参加することで人とのつながりができる、これからこのような居場所を作ってほしい」との感想が寄せられました。



フレイルチェック



コープいこま、コープたつたがわ、コープなんごうで奈良県立医科大学MBT研究所梅田教授と提携し「フレイルチェック～測定して自分の現状を知ろう!～」と題する講座を開催しています。2024年10月から2025年3月までのべ110人が参加しました。

リーディングサービス

視覚に障がいのある方がならコープの個別配達を利用できるように、組合員ボランティアが商品案内書を読んでCDにした音声カタログを届ける活動です。2024年度の3月末時点での利用者は33名です。

たすけあいの会

「困った時はお互いさま」の気持ちで、組合員が高齢者や産前産後の方の自宅で掃除や洗濯などをおこなう有償のボランティア活動です。介護保険では適用外となっている草引きや部屋の整理などもおこなっています。2024年度は716人(前年比:96.2%)の方が利用されました。

福祉募金

ならコープが設立を支援した社会福祉法人協同福祉会とコープたすけあいの会の支援を目的に福祉募金に取り組んでいます。協同福祉会は特別養護老人ホーム「あすなら苑」を中心に奈良県下21の施設を運営しています。



↑(前年比)
118%UP
139万5,707円
(2024年度)

エイブル・アート SDGs プロジェクト

近畿労働金庫、たんぼぼの家、奈良県生活協同組合連合会(奈良県生協連)とともに「ARTS in CO-OP～生活とアートの協同～」を、コープ七条をメイン会場として北エリア各店で開催しました。障がいのある人のアートと地域の人々の生活を結びつけることを目的とし、地域の人々が日常的に利用するならコープの店舗内でアート作品を展示し、障がいのある人の存在を新たな視点で体験できる機会を創出しました。アートを通じて「誰一人取り残さない」共生社会の実現をめざした取り組みをすすめました。



憲法学習会

日本国憲法の条文の趣旨や内容を正しく理解するために西見弁護士を講師に招いて憲法学習会を開催しました。「戦争をしない、させないために憲法をどう活かせばいいのか」をテーマに、憲法改正の是非、今後私たちが考えなければならないことを学び共有しました。70人の参加がありました。

ピースアクションinなら2024

奈良公園バスターミナル・レクチャーホールにて、奈良県生協連を事務局とするピースアクションをすすめる会とともに「ピースアクションinなら2024」を開催し、約200人が来場しました。フォトジャーナリストの安田菜津紀氏による「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと～」の講演がありました。紛争地や被災地での取材を通じて撮影した写真を紹介しながら、私たちが今できること、そして未来に向けてどのような選択をしていくべきかについて話されました。

平和学習

戦争の惨禍、被爆の実相を知り、平和の大切さを学ぶ場として、組合員、職員を募集して、被爆地広島を訪問する「ヒロシマの旅」に毎年取り組んでいます。2024年度は組合員、役職員の21名が平和記念式典の見学、「ひろしま子ども平和の集い」、「被爆者証言のつどい」に参加し、戦争や核兵器の恐ろしさや命の尊さを学びました。参加者は店舗や事業所でそれぞれ報告しました。



被爆者救援募金

被爆者ならびに被爆者支援団体や関連医療機関を支援する取り組みとして、1984年から今日まで被爆者救援募金に取り組んでいます。これまでに9,096万5,897円が寄せられ、日本被団協、相談員の会、被爆者援護事業団、広島・長崎の両原爆病院、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会(以上略称)の活動を支援しています。

83万8,755円
(2024年度)



すくすくくらぶ

子育て世代の支援の一つに、子育ての経験やヒントを共有する場として、「すくすくくらぶ」を運営しています。登録者同士が交流し、日々の悩みや不安の解消につながることをめざします。2024年度は子どもたちに多様な体験を通して学べる場を提供するために「子どもおしごと体験」や「はじめてのおかいもの」を実施しました。公式LINEの登録者は2025年3月現在、3,835人（前年比1,435人増）となっています。2025年度内に登録者5,000人をめざします。

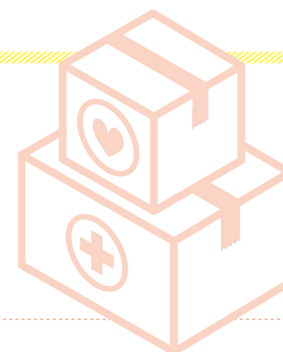


フードドライブ

食品ロス削減、子ども食堂や貧困世帯への支援を目的に、家庭で使いきれない未開封の食品や未使用の文房具を預かるフードドライブを毎月、全店舗と無店舗事業で実施しました。2024年度はのべ1,751人から食品3,275kg、文房具438kgが寄せられました。寄せられた食品はもったいないNARAにお渡しし、そこから地域のフードバンク団体を通じて、子ども食堂や必要としている人に届けられています。文房具は学習支援団体および社会福祉協議会などの諸団体を通じて必要としている子どもたちに届けられています。

ユニセフ募金

開発途上国や紛争地の子どもと女性を支援するため、1984年にユニセフ募金活動を開始し、2024年度は195万9,950円が寄せられました。これまでに1億2,120万9,907円が寄せられています。



夏休み学童企画



学童保育所の保育時間充実のために、葛城市と共同で社会勉強も兼ねたお楽しみ会を市内6カ所の学童保育所で開催しました。葛城市からの依頼で、物流（ならコープの商品が組合員に届くまでの流れ）の学習会やビンゴ大会、クラフト工作などをおこない、子どもたちの笑顔があふれました。

こども寺子屋

産学連携としてコープ真美ヶ丘で2023年から畿央大学の学生ボランティアが地域の子どもたちといっしょに遊び、勉強を教え、交流する「こども寺子屋」を開催しています。2024年度は7回開催し、子どものべ59人、学生のべ48人が参加しました。



指定募金

「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム」

129万30円 (2024年度)

一般募金

奈良県ユニセフ協会を通じて日本ユニセフ協会に

66万9,920円 (2024年度)

つながる箱

奈良県との「連携と協力に関する包括協定」に基づき、2018年から子育て中の方に寄り添うために、地域とつながるきっかけとして、1歳までの赤ちゃんを持つご家庭におむつや離乳食などの育児用品を詰め合わせた「つながる箱」をお届けしています。2024年度は2,669軒（前年比94.6%）でした。



男女共同参画

毎年定期で開催しているジェンダー問題と男女共同参画の学習会は、2024年度は管理職者を対象に「働く女性の健康意識調査から～誰もが生き生きと健康に働き続けるために～」をテーマにして、大塚製薬から講師を招き、女性の健康や社会的立場について学びました。また、組合員による男女共同参画グループ「いこ～る」は、自治体からの講師依頼が7件、また、学習会を開催して69人が学習しました。

子どもの職場参観

次世代育成支援法による一般事業主の行動計画に基づいて、各事業所で子ども参観日を実施し、6家族8名が参加しました。店舗では、品出しやリサイクルの回収などを手伝い、無店舗事業では配達の同行や、トラックへの商品の積み込みなど家族の職場の業務を体験しました。



育休制度の取得状況

育休取得率

72% (2024年度)

	対象者	取得者	取得率
女性	6名	6名	100%
男性	12名	7名	58%

2024年度 ならこープの概況



ならこープマスコット ならっぴ

※2025年5月19日時点での決算数値です。数値は変更になる場合がございます。

ならこープは、無店舗事業や店舗事業の他に
福祉、共済、子育て支援など
さまざまな事業を展開しています。
地域の方々と連携を深めて
より良いサービスの実現をめざします。

組合員数

Number of
union members



27万8,398人

(前年比 100.0%)

供給高

Supply amount

内訳

無店舗事業：
281億1,901万円
店舗事業：
99億3,635万円



380億5,537万円

(前年比 102.1%)

2021年度より「収益認識に関する会計基準」を適用しております。

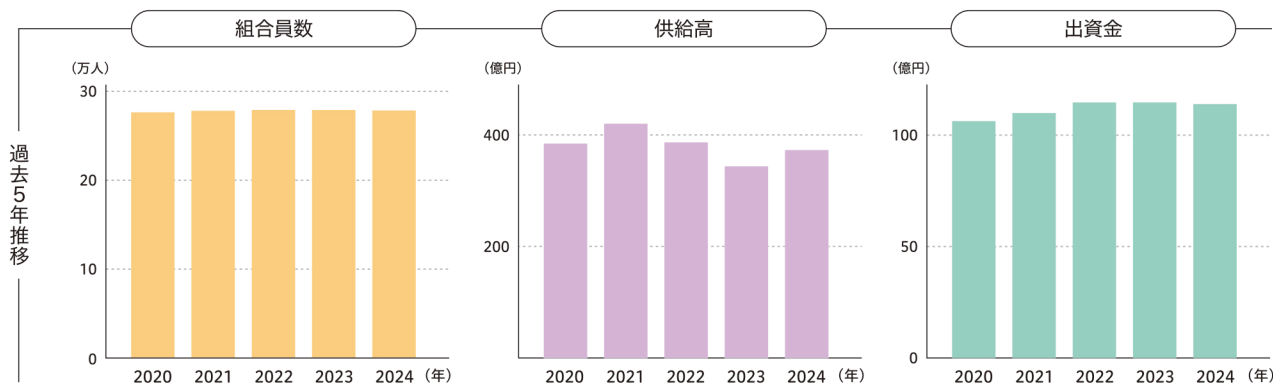
出資金

Investment



113億5,292万円

(前年比 100.4%)



市民生活協同組合ならこープ

〒630-8503 奈良市恋の窪一丁目2番2号

[TEL] 0742-34-8731

[FAX] 0742-34-8730

[ホームページ] <https://www.naracoop.or.jp/>

発行



●用紙:適切に管理されたFSC®認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。
●インキ:大豆油インキを含む植物油インキ ●印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷
●製造、廃棄に発生するCO₂をカーボンオフセット済 ●CO₂排出量:91.3g/部